

## 脂肪注入による豊胸：しこりを作らず定着率を上げるコツ (培養自己脂肪幹細胞添加による脂肪豊胸の結果を踏まえ)

### 大橋 昌敬

Masanori Ohashi

THE CLINIC 東京

脂肪注入による豊胸はコールドマンテクニックや脂肪由来間葉系幹細胞 (ASCs) の概念の普及で近年メジャーになっている。

当院でも、ASPS (アメリカ形成外科学会) が脂肪による豊胸のモラトリアムを緩めた 2008 年以來、脂肪注入による豊胸をコールドマンテクニックに準じて本格的に始めた。現在、当院では年間 500 例を超える脂肪注入法による豊胸術を行っており、CRF 導入以來 3,800 例超の CRF 豊胸を行っている。

我々の経験、そして医学文献上から、脂肪注入による豊胸のポイントは

- ① 注入手技 (多層に細かく注入)
- ② 脂肪の加工法 (遠心分離や CAL 等、単位体積当たり ASCs 濃縮)
- ③ レシピエント側の条件 (術前乳房の状態: 特に皮膚伸展)

だと考えられる。

当院では①注入手技として直径約 4 ミリのヌードル状にして多層 (皮下、乳腺下、大胸筋内、大胸筋下) に細かく注入する事、また、本人のバスの許容量以上に多く入れないことを重要視している。

手技以外での工夫として②加工法は、CRF (コンデンスリッチファット: 荷重遠心分離 [700~1200g, 3分]) を使用することをベースとして、最近では自己培養脂肪幹細胞を CRF に約 500 万個を添加し (Cellture 豊胸) より良好な結果を得ている。

また、④レシピエント側の皮膚伸展の向上として術前に Brava (external pre-expansion of the breast device) を用い皮膚の伸展後に CRF 豊胸を行うことで、(特に伸展が悪く今まで脂肪注入では結果が悪いと考えられていた患者) に対しても十分満足できる結果が得られている。

今回は当院で行っている脂肪注入のコツに加え、最新の培養脂肪幹細胞添加による脂肪豊胸の結果などを含め発表したい。